

I. 研修の開催に関すること

1. 研修開催場所の箇所数

- 1) 研修責任者研修 (1)箇所
- 2) 教育担当者研修 (1)箇所
- 3) 実地指導者研修 (1)箇所

2. 研修開催場所の選定にあたって考慮したこと

- 1 会場の広さ、(受講希望者が全て受けられる。講義と演習ができる十分な広さがある)、交通の便(公共交通機関)が良い。
- 2 研修開催における人材の確保がしやすい(講師・グループワークのファシリテーター・運営スタッフ)
- 3 学習環境設備・備品の整備(パソコン、プロジェクター、図書・文献検索などで調べることができる、インターネットで調べることができる)されている施設

3. 研修開催延べ回数

- 1) 研修責任者研修 (1日6時間×5日間+4時間×1日=6日間の開催プログラムを1)回
- 2) 教育担当者研修 (1日6時間×4日間+4時間×1日=5日間の開催プログラムを1)回
- 3) 実地指導者研修 (1日6時間×4日間+5.5時間×1日=5日間の開催プログラムを1)回

II. 研修受講者に関すること

1. 研修の受講資格・選考基準等(施設類型や職位等、どのような基準を設けているかをご記入ください。)

受講資格

- 1) 研修責任者研修: 下記の項目を満たす者①三重県内の医療施設等で勤務する者のうちガイドラインで規定された研修責任者としての役割を担っている者またはその任にあたる予定のある者 ②全日程出席が可能な者 ③受講中に離職しないことが確実な者
- 2) 教育担当者研修: 下記の項目を満たす者①三重県内の医療施設等で勤務する者のうちガイドラインで規定された教育担当者としての役割を担っている者またはその任にあたる予定のある者 ②全日程出席が可能な者 ③受講中に離職しないことが確実な者
- 3) 実地指導者研修: 下記の項目を満たす者①三重県内の医療施設等で勤務する者のうちガイドラインで規定された実地指導者としての役割を担っている者またはその任にあたる予定のある者 ②全日程出席が可能な者 ③受講中に離職しないことが確実な者

選考基準: 小規模施設を優先

2. 事業の周知及び参加者募集方法(ご自由にご記入ください)

- ①三重県看護協会における教育計画への掲載
- ②三重県看護協会ホームページへのアップ
- ③三重県看護協会新任者研修において参加者へ紹介
- ④三重県医師会、三重県病院協会に案内の配布の依頼
- ⑤新人看護職員が入職している診療所・老人保健施設への案内の送付(県内全ての看護師養成所
及び、看護系大学に卒業生の就職先と人数を3月末に調査している。また病院調査から採用予定者についても把握している。)

Ⅲ. 研修内容に関すること

1. 研修責任者研修と教育担当者研修、実地指導者研修の研修間での連動など工夫していること

例) 研修責任者研修の受講修了者が教育担当者研修に参加し、自施設での取り組みを発表する機会を設けた。教育担当者研修受講者との交流を図ることで、教育担当者のニーズを知る機会としたり、相談にのる機会にもなっている。

研修責任者研修及び教育担当者研修の初日に「1. 新人看護職員研修ガイドラインの考え方」の講義を計画し、同じ研修室で受講できるようにした。また、管理者以上の職位には、聴講者として参加できるように別枠で募集し、同じ施設で新人看護職員のガイドラインが共有できるように配慮した。

Ⅳ. 事業の評価等に関すること

1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

①研修責任者研修: 演習課題を与え、方法としてグループワークを取り入れた。グループメンバーは地域別で構成した。課題は、グループ内の実際の病院を事例として、新人看護職員研修教育計画、年間プログラムの作成、1日の研修計画作成とし、最終日に全体発表を行った。現場ですぐ活用できるレベルまで理解を深めること、身近に相談できる仲間づくりにもなるように企画した。グループワークのために集まれるように、自習日(6時間)を繰り入れられるようにした。参加者は1施設1名とし、異なる意見を調整する力が学べる機会とした。運営には検討委員会委員と看護協会教育担当者があつたが、自主的なグループ活動を尊重し、ファシリテーションは最小限にした。

②教育担当者: 演習課題を与え、方法としてグループワークを取り入れた。演習課題は、新人看護職員教育検討委員会のメンバーが作成した模擬事例による年間プログラムの作成体験と指導観の育成とした。グループメンバーはよく似た部署で構成し、問題や困難感を共有できるように配慮した。教育担当者としての展望がもてるように、振り返り時間を設けた。

③実地指導者研修: 「指導技術」について、演習を多く取り入れた講義構成とし、実践的な指導技術の教授となるような講師に依頼した。また、「メンタルサポート支援」について、実地指導者として新人へのメンタルサポート支援の方法の一つを学習する研修を取り入れた。最終日の「指導観の育成」では、実地指導者としての課題の共有・解決策の検討などをグループワークする時間を設け、実地指導者としての自己の展望を明らかにした。

2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

①受講生によるアンケート
②検討委員会メンバーによる参加観察
③課題の発表内容(成果物)の分析により、効果および評価を行い、次年度の課題を明確化した。
④病院等の施設訪問によって、研修責任者等研修が活かされ、研修体制やプログラムの開発がなされていることを確認した。県庁職員が年4か所アドバイザー派遣に同行し、その際に看護部長や教育担当者から聞き取り調査を行った。

Ⅴ. 事業の委託に関すること

1. 事業の委託 A 委託していない B 委託している 委託先(三重県看護協会)